

爬虫類の現状の課題等および 爬虫類に関する飼養管理基準について

2023年2月9日

いのかしら公園動物病院 石橋 徹

石橋 徹

いのかしら公園動物病院 院長 獣医師・獣医学博士

環境省関連

- ・愛護動物適正飼養管理マニュアル（爬虫類）作成委員
- ・特定外来生物分類群専門家委員（爬虫両生類）
- ・特定動物の種類の見直し検討会委員
- ・特定動物マイクロチップ挿入技術検討委員
同マニュアル作成委員 同講習会講師

生体販売現場関連

- ・大手輸入業者の顧問獣医師として勤務
90年代後半から2000年代初頭の野生動物飼育ブームの鎮火に尽力
麻布大学病理学研究室に、輸入野生動物の感染症例を多数提供
- ・爬虫類個人ブリーダーの動物取扱業者登録が円滑に進むように奔走
巨大ブラックマーケット発生を阻止
- ・爬虫類販売業者・展示業者への衛生管理指導（日常の診療業務の一部として）

イベント販売関連

- ・National Reptile Breeders Expo
（@フロリダ 34年の歴史を誇る世界最大の世界初の爬虫類ブリーダーイベント）
主催者ウェイン・ヒル氏の友人として、イベントの成り立ちや問題点、
厳しいレギュレーション、将来の課題等について取材
- ・HBM（ハープタイルブリーダーズマーケット）
National Reptile Breeders ExpoとHBMとの懸け橋となり、
開催ポリシーの共有を図る
動物取扱業の登録が本格化に伴い、販売時説明そのほかの運用が
スムーズに行われるよう、主催者・参加者に情報提供と指導を行う
- ・ゲッコーマーケット
設立時のアドバイザーとして、展示販売個体の福祉（適正管理や
衛生管理を指導）や法律の順守について指導

飼育技術関連

- ・昆虫その他節足動物 魚類 両生類 爬虫類 哺乳類の飼育繁殖経験多数
（ゴールデンレトリバーの自家繁殖を含む エキゾチックペットひとつとおり）
- ・動物園水族館協会 高崎賞受賞（ジムグリの繁殖）
- ・クリーパー誌寄稿（マレーベニナメラ国内初繁殖記録）
- ・傷病野生鳥獣の介護に伴う長期飼養管理経験多数
- ・日本放鷹協会会員

愛護福祉活動

- ・地元の活動家とTNR活動
- ・保護仔ネコの救命と人工保育ボランティア
- ・警察関連個体のうち飼育困難種を受け入れ
（逸走エキゾチックペットならびに摘発動物の救命と飼育管理ボランティア
種の同定と関連する動物法についてアドバイス）

野生動物保護関連

- ・傷病野生鳥獣の救命と飼育管理（東京都指定病院）

日常業務関連

- ・個人ブリーダー 販売業者 展示業者が持ちこむ個体の治療
法律的なアドバイス（サイテス関連 特定動物関連）

普及啓蒙活動

- ・最凶のエキゾチックペットブームが到来した90年代から2000年代初頭に
創刊されたエキゾチックペット飼育雑誌「アニファ」の監修を務め、
面白がって次々と野生動物を飼おう！という雑誌のコンセプトに異を唱え、
野生動物を飼うデメリットを徹底的に啓蒙。雑誌を硬派路線に切り替える
ことに成功。我が国のエキゾチック飼育ブームの鎮火と浄化を図る
- ・爬虫類と両生類の臨床と病理のための研究会設立に協力
爬虫類の専門家と爬虫類に興味がある獣医師の垣根を超えた交流が始まる
- ・地元小学校の教室飼育動物に関し、教職員の相談を受け付けている

爬虫類の現状の課題

特に動物取扱業の展示、販売等にかかる業種について

爬虫類の展示および販売の現場で、法規制に踏み切るほどの問題点は見当たらず、国をあげて憂う程の事態ではないと感じている。

近年の爬虫類飼育技術の向上はめざましい

- 動物園水族館協会の繁殖賞の受賞内容
- 爬虫類飼育専門誌に掲載される愛好家の飼育の実態や繁殖実績

飼育先進国と呼ばれてきた欧米諸国と比較しても

遜色ないレベル

爬虫類の飼育者は学究肌の人が多い

- 生物学的興味が飼育の動機
- “かわいい”を動機として飼育を始める人が登場したのはごく最近

「上陸組」の存在

爬虫類愛好家には、俗に「上陸組」と呼ばれる人達が一定数存在する

魚類は飼育者が環境をコントロールして適切に飼育しないと生かしておくことすらままならない生物群

- 魚類を更に状態よく飼育し、繁殖にまで持ちこむには、相当な腕と経験とセンスを要する
- 魚類の飼育で鍛えられ、基礎が出来上がっている上に、もともと高度な飼育センスと向学心をあわせもつ特殊な人々が上陸して爬虫類飼育を開始

「上陸組」とは

主に、未だ爬虫類の飼育が一般的ではなかった概ね1990年代以前に古代魚を中心とした魚類飼育の経験を経て、両生類あるいは爬虫類へと趣味の触手を伸ばした人たち。生物の進化の過程になぞらえて「上陸組」と称されるようになった。

イヌやネコの飼育とは大きく異なる

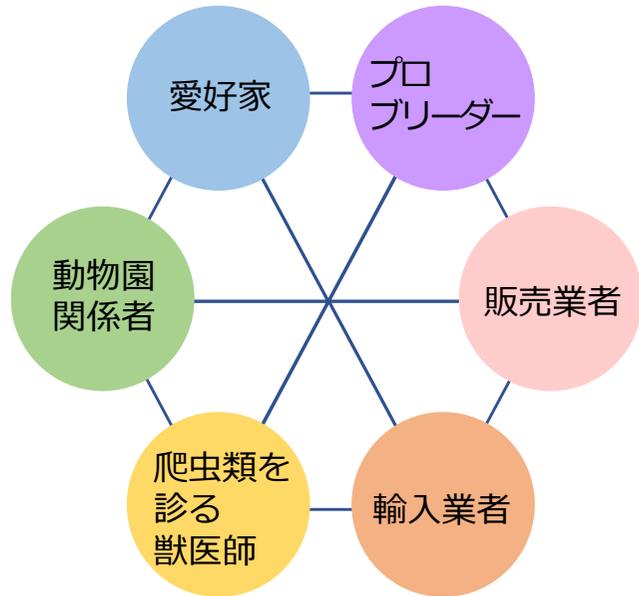
わずか20年ほどで世界水準のハーペットカルチャー文化が我が国に定着した

爬虫類主体の第一種動物取扱業登録業者

まずは意識の高い「上陸組」が主体となって広がっていった

爬虫類の展示および販売の現場で、法規制に踏み切るほどの問題点は見当たらず、国をあげて憂う程の事態ではないと感じている。

専門の情報誌やSNSの普及



関係者間の情報交換の垣根がなくなり、互いに相乗効果や自浄効果を発揮

飼育初心者でもあらゆる種類を対象とした高度な飼育技術を学べる環境が整っている

爬虫類の飼育に関して…

環境省から発行される最大公約数的な普及啓蒙パンフレットは無用だと思われる

そもそも最大公約数的な情報では爬虫類は生かしておけない

情報量に乏しいパンフレットを読む人も多くないと思われる

動物取扱責任者の設定

一定の要件を満たす専門家が居なければ爬虫類の販売・展示を行ってはいけない

本来

爬虫類専門店のオーナー

好きが高じて店を開くに至った
爬虫類の専門家

動物取扱責任者の設定に憤りを感じる人も少なくなかったが、法律を順守した結果、**専門家としての裁量権を国から担保**される形になった。

爬虫類の現状の課題

特に動物取扱業の展示、販売等にかかる業種について

爬虫類の展示および販売の現場で、法規制に踏み切るほどの問題点は見当たらず、国をあげて憂う程の事態ではないと感じている。

昨今問題視されがちな**爬虫類のイベント販売**について

爬虫類イベントにおける生体販売者

1 各地方における有名な専門店

爬虫類の専門家たちであり、
その中でも成功者の部類に属する有名店のスタッフたち

➡ その知識と経験には口を挟む余地がない

そんな彼らが販売前に顧客一人一人に必要な情報を
説明することが法律で義務化されている

かつてのような
衝動買いによるトラブルは発生しにくい

2 個人ブリーダー

かつて犬猫で問題視されたホビィブリーダーとは様子が異なる

ハーペットカルチャーにおける頂点ともいえる人材

良心という観点からもダークな要素が見当たらない存在

野生動物の消費というダークな側面への自浄作用

今の実力を持った彼らが時間をさかのぼり80年代初頭の爬虫類業界に
存在したら、絶滅危惧種に追いこまれず、逆に域外保全個体の大量生産が
叶った種類も沢山あったのではないかと思われる。
好事家の力というのは侮れない。

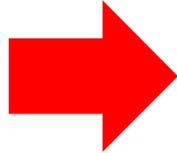
爬虫類業界で果たす役割は大きい

世間のイメージからはかけ離れた見解とも思えるが、それが実情である。

事業所以外での販売を禁止する規制について

個人ブリーダー

事業所 = 自宅



個人宅に不特定の他人をあげる事になる

セキュリティの観点 → 好ましくない

プライバシーの観点 → このような事態を望んでいない

個人ブリーダーにとってイベント販売

最も理想的な販売形態

集客の効率の面からも、イベントなくしては存続が難しい

イベントでの販売を断たれると…

爬虫類飼育業界の良心である個人ブリーダーが駆逐される

爬虫類飼育文化の牽引者が消えることによって、爬虫類販業界そのものが霧散する可能性すらある

現在検討されている規制は、
せっかくここまで育った健全なハーペットカルチャー文化を、一斉に地下に潜らせ、
非合法な取引がメインの世界になっていく危険性すらはらんでいる。

爬虫類の現状の課題

特に動物取扱業の展示、販売等にかかる業種について

爬虫類の展示および販売の現場で、法規制に踏み切るほどの問題点は見当たらず、国をあげて憂う程の事態ではないと感じている。

現在検討されている規制

せっかくここまで育った**健全なハーペットカルチャー文化**を、一斉に地下に潜らせ、**非合法的取引がメインの世界になっていく危険性**すらはらんでいる。

ここまでして爬虫類取扱業者を追いこまねばならない理由が見当たらない。社会的にみて、何かおおきな被害が発生しているのだろうか。現状、どれだけの国民が実害を被っているのだろうか。あるいは、国民は何をそんなに爬虫類について憂っているのだろうか。

図3 ペット飼育の有無

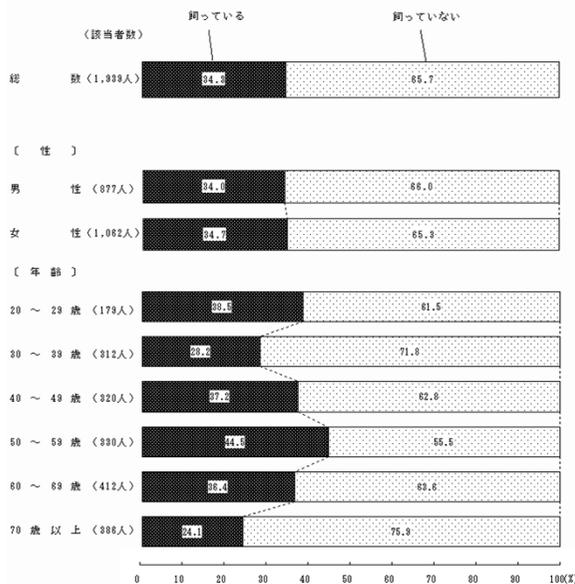
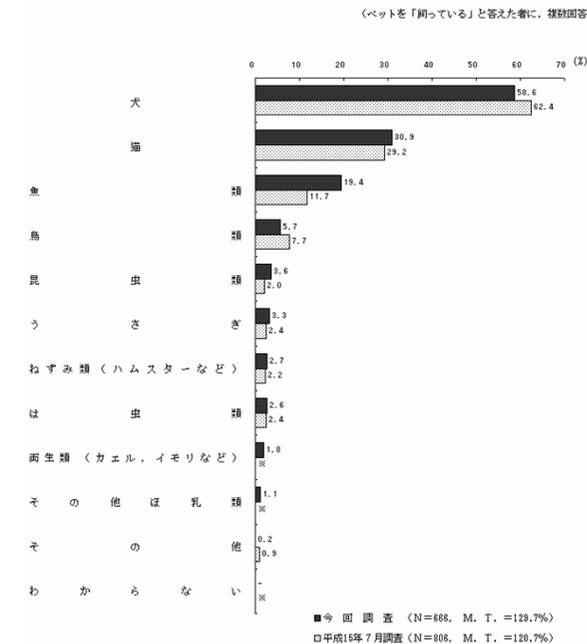


図5 飼育しているペットの種類



「内閣府 世論調査 平成22年 動物愛護に関する国民の意識」より

国民の6割がペットを飼育していない。

ペットを飼育している人の中で、爬虫類を飼育している人の割合が2.5%程度。国民全体に換算しなおせば、1%程度。

爬虫類に関する
国民の関心度は総じて低い
と考えられる

爬虫類飼育が
社会に与える影響は大きくない
と思われる

爬虫類販売に規制を加えるためにこれだけの時間と労力が割かれる動機が見当たらない。納税者はこの一連の動きに納得するのだろうか。

爬虫類の現状の課題

特に動物取扱業の展示、販売等にかかる業種について

爬虫類の展示および販売の現場で、法規制に踏み切るほどの問題点は見当たらず、国をあげて憂う程の事態ではないと感じている。

何等かの誤解の上に成り立った

プリンカップによる輸送と展示が個体の福祉に反するという点について

商品

大切に育て

繁殖した

愛着ある
個体

しかも健康なまま確実に売れないとビジネスとして成り立たない

どうしたら一番安全か

経済的・労力的に簡便でなければならない

そして世界中の専門家、好事家が知恵を絞って考えた結果あの形態に行きついた

現在の完成形に至るまでの途中。容器の中で右往左往して消耗する個体も出たであろうし、蒸れて死ぬ個体も出たであろう。なんとかベターな方法を見つけようと様々な試行錯誤がくりかえされてきた。20年前のフロリダのエキスポでインタビューを行った際にも、彼らの試行錯誤の様子を直に見ることができ、感銘を覚えた。全米から真夏のフロリダを目指してブリーダーが繁殖個体を輸送するイベントである。日本列島よりも長い距離を移動し、会場の二日間を無事に乗り切るように考案されたのがプリンカップ方式である。

この方式をそのまま輸入し、さらに各ブリーダーが自分の扱う種類ごとに若干の工夫を加えているのが現在の日本の爬虫類イベントの輸送展示方法である以上、問題視するにはあたらないと思われる。

おそらく事情を知らないであろう、日常的に爬虫類に関わっていない方の心に沸きあがった「印象」を根拠にイベント販売の形態を否定するのは少々乱暴な話であると感じる。

さらに付け加えるならば、販売されている個体たちは、あのカップの中で終生飼養されるのではないしプリンカップで持ち帰った個体たちの特別な体調ケアについて丁寧に指導しているイベントも存在する（もちろん個々のブリーダーが種類ごとの解説を販売時に説明をしている）。

爬虫類の現状の課題

特に動物取扱業の展示、販売等にかかる業種について

爬虫類の展示および販売の現場で、法規制に踏み切るほどの問題点は見当たらず、国をあげて憂う程の事態ではないと感じている。

ホームセンターでの販売について

プロショップでの販売および個人ブリーダーによるイベント会場での販売に関しては前述の通りプロによる生体管理と顧客対応が期待できるが、ホームセンターのペットコーナーにおいては事情が多少なりとも違ってくる可能性がある。

ホームセンターのペットコーナーでは、動物取扱責任者の専門性が、犬、猫、魚類に偏っている可能性が高い

爬虫類の取り扱いは先に述べた通り**高度な知識と経験を要する**ので**片手間**でなんとかなるものではない

一方で、

一般的な家族連れは、わざわざ爬虫類のプロショップに足を踏み入れない

ホームセンターこそ多くの一般人が爬虫類が販売されている様子を目にする現場

これをもって爬虫類の販売現場が動物愛護の観点から不適切であるという**印象**を世間に**与えかねない**

ホームセンターにおいては…

■ 展示販売する商品のラインナップを難易度の低い種類に限定する

■ 個人の企業努力として別途従業員に技術指導をする

ように経営者に勧告するなどしてはどうか

飼養管理基準をエキゾチックペット（特に爬虫類）で設けるのは大変困難。

種類が多く、適正管理方法が種類の数だけ存在する。

適正管理方法を
定める場合の条件

多種多様な爬虫類の全てに適用できること
爬虫類に関する専門知識が少ない自治体職員が使えること

エンドユーザーたる一般飼養者への基準ではないものの「**一般飼養者への波及も期待する**」という**無理難題**

個体差というものがあるが犬猫以上に存在する。

- ・ **同種内でも個体差が存在**し、家庭での飼育現場ですら苦労させられるポイントである。
- ・ 基準を設けて仮にそのとおり実行できたとしても、**個体差のせいで期待どおりの成果が出るとは限らない**。たえず現場あわせの臨機応変が要求される。
- ・ 普段からよく生体を観察している販売員が特定の個体を指して、「**この個体はこうだから、家ではこうしてあげて**」と申し添えることも少なくない。

採算性を度外視するわけにはいかない

現場が著しく疲弊するような事細かく履行困難な基準を設けた場合・・・

- ・ **ビジネスとして立ち行かなくなる**
- ・ **至らない点を指摘する通報電話で自治体の窓口がパンクする恐れ**

科学的な知見から、どう見ても不適切な取り扱いを排除する

この議論においては、**世間一般の印象と実際の爬虫類との乖離**を理解した上で判断すべき。

「**素人目に見て**」と「**我が身に置き替えて**」は**禁忌**である。

爬虫類の展示販売現場においては…

爬虫類のプロである取扱責任者の力量に期待
裁量権を最大限認める方向性

管理基準
策定

そもそも売り物の損失を防ぐことは商売上最優先であり、言われなくても日常的に適切な飼養管理を目指しているはず。